

オンライン講座 日本史をにぎわせた女性たち II

テーマ : 「天才作家は何を求めた 紫式部」

日時 : 2022年 7月 12日

講師 : 林 和清 先生

当日参加受講生: 19名 (在籍 30名) 再視聴あり

講義前に第3回「清少納言」に寄せられた質問にお答えいただきました。(下記の他に数件の Q&A がありました)

Q: 藤原道長の娘・中宮彰子はなぜライバル中宮定子の遺児・敦康親王を引き取り育てたのか?

A: 彰子は、定子を冷遇し死に至らしめた父(道長)のやり方を快く思えずにいたため、償いの気持ちもあり敦康親王を養育したのではないかと推察されます。

再来年には NHK 大河ドラマになるという紫式部の生涯について、「紫式部日記」の内容を引用してお話し頂きました。

紫式部の経歴と作品

- ・ 生年は 970 年頃と言われ、今は盧山寺となった京都北山で育ちました。曾祖父藤原兼輔造営の、都にあって最も自然環境のよい所で、多くの書物に触れて知識を深めていきます。弟が習う「論語」を横で聞いていただけでしっかり覚えてしまったという事です。右が盧山寺と、そこにある紫式部と娘大式三位の歌碑。

めぐりあひて見しやそれともわかぬまに雲隠れにし夜半の月影
有馬山猪名の笹原風吹けばいでそよ人を忘れやはする

- ・ 986 年花山天皇の退位で父藤原為時は官職を失い 10 年間無職となり、994 年には姉を喪います。998 年藤原宣孝と結婚。翌年、長女、賢子(のちの大式三位)が生まれます。
- ・ 1001 年仲睦まじい時期は短く、女癖の悪い宣孝は幼い娘を残して急死。見し人の煙となり夕べより名ぞむつまじき塩竈の浦
- ・ 1001 年秋ごろより「源氏物語」執筆開始。文才が認められ、藤原道長に乞われて一条天皇の中宮・彰子(道長の娘)に仕えるようになります。「源氏物語」は 1010 年頃完成したと伝えられています。同じ時期、中宮彰子の出産を中心とした「紫式部日記」が書かれます。
- ・ 清少納言のように社交的ではなく、内省的な性格のため誤解されることもあり、また「源氏物語」の好評に嫉妬をかい、いじめられることもありました。紫式部は教養ある事を隠して宮仕えを続けることを決心します。
- ・ 自身の孫を早く天皇にしたい藤原道長は、病気を理由に一条天皇を退位させます。強引で娘さえも踏み台にする道長に彰子は反発し、同じ思いの剛直な藤原実資と交流を深め、その取次ぎを紫式部が務めます。これに怒った道長が、紫式部を謹慎処分とし式部は宮中を去ります(1013年)。



紫式部
大式三位 ✓石に刻まれたふたりの歌



- ・ 彰子の病氣平癒を願って清水寺を訪れた際、同僚だった伊勢大輔と再会し、歌をよみあいます。紫式部は女性同士の友情をととても大切にし、再会を喜び合ったようです。
- ← 雲林院で出家し 50 数才頃亡くなり、墓所は京都紫野にあります。
- ・ 最後に、紫式部は日本人唯一の「ユネスコの世界の偉人」に選ばれた作家と学びました。(担当 口村)